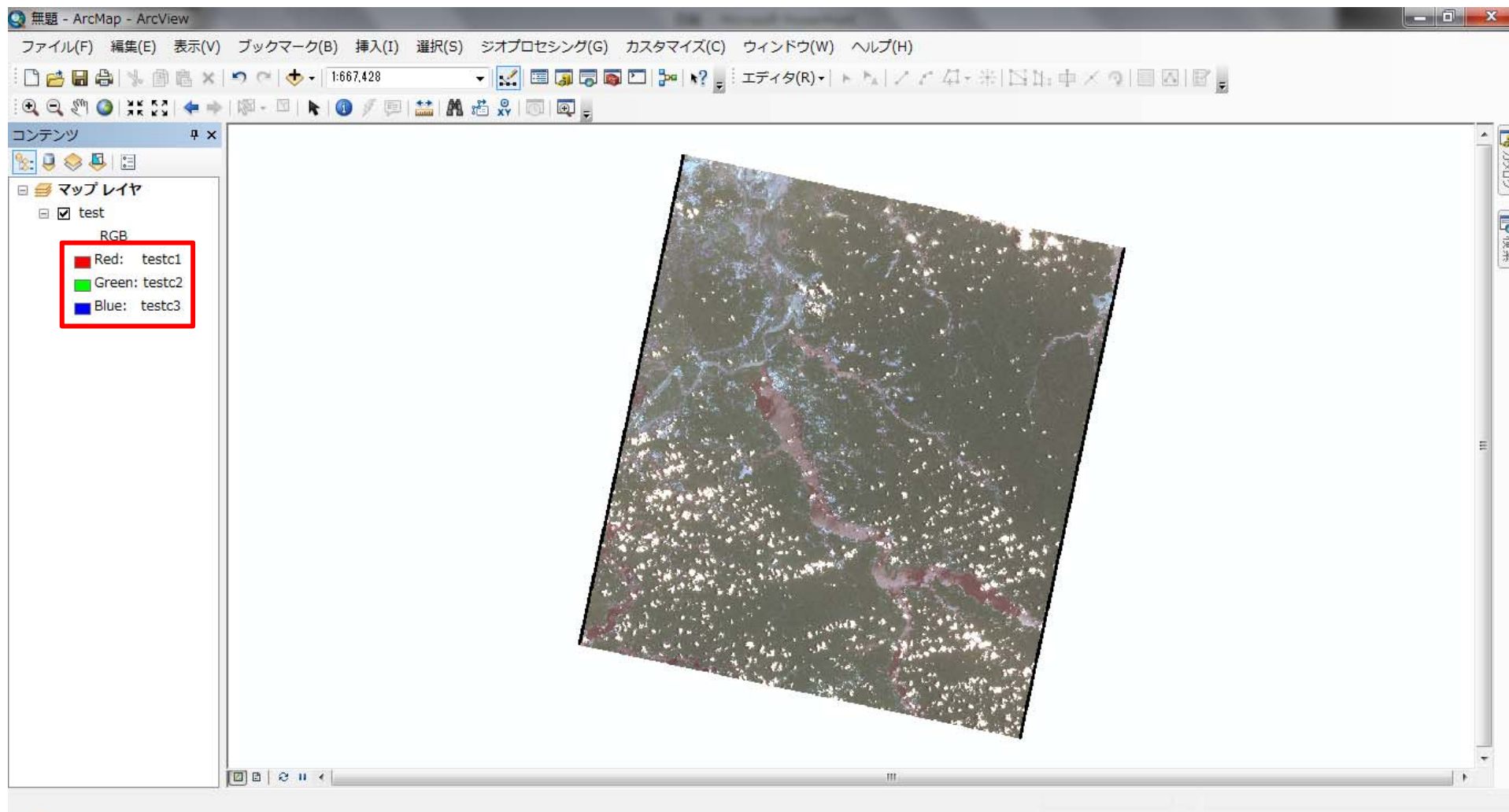


GIS・GPS・リモートセンシングデータを用いた
フィールドワークのためのベースマップ作成
—ブラジルアマゾン, マウエス川周辺を事例に—

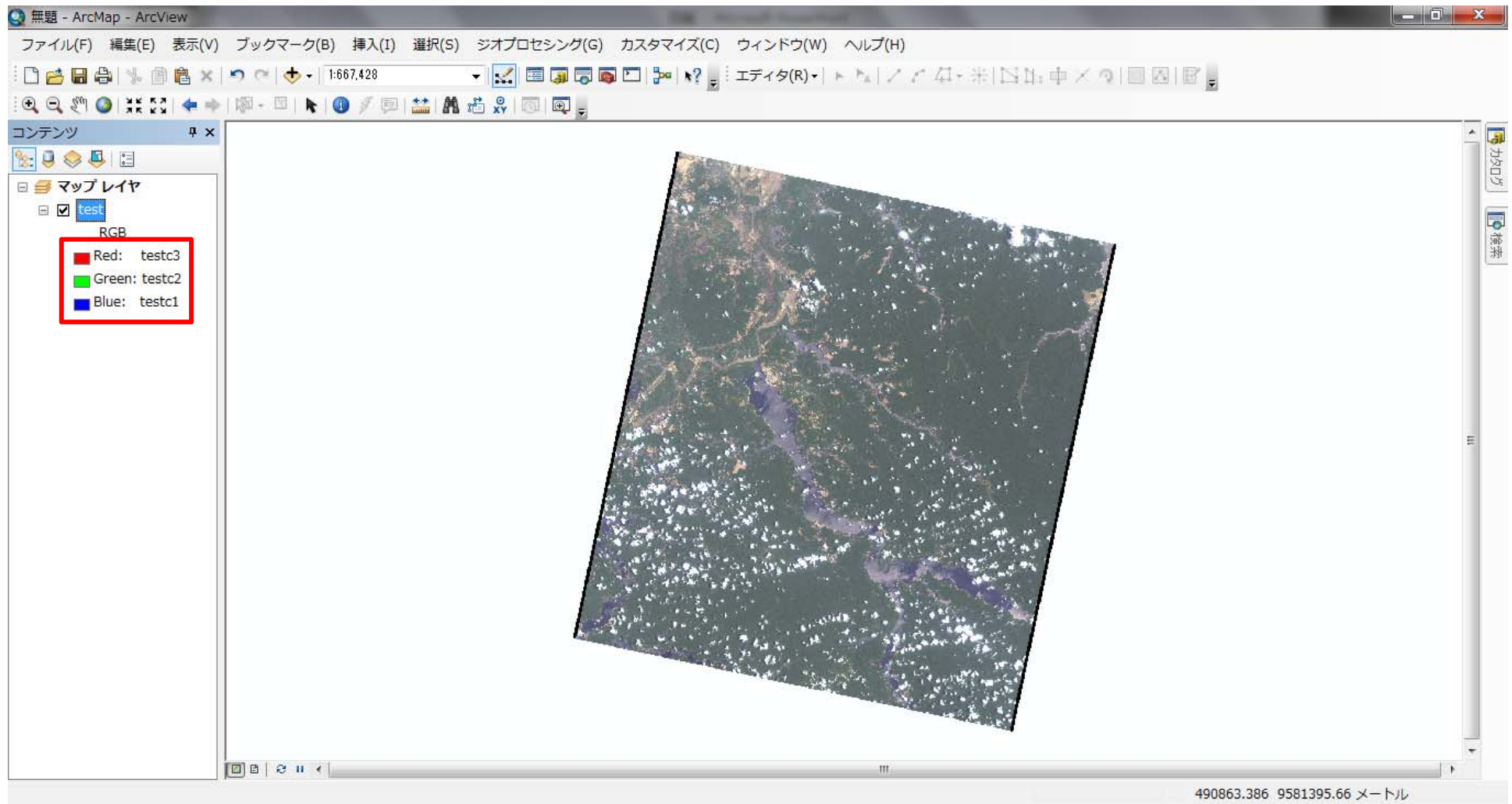
山下 亜紀郎

発表内容

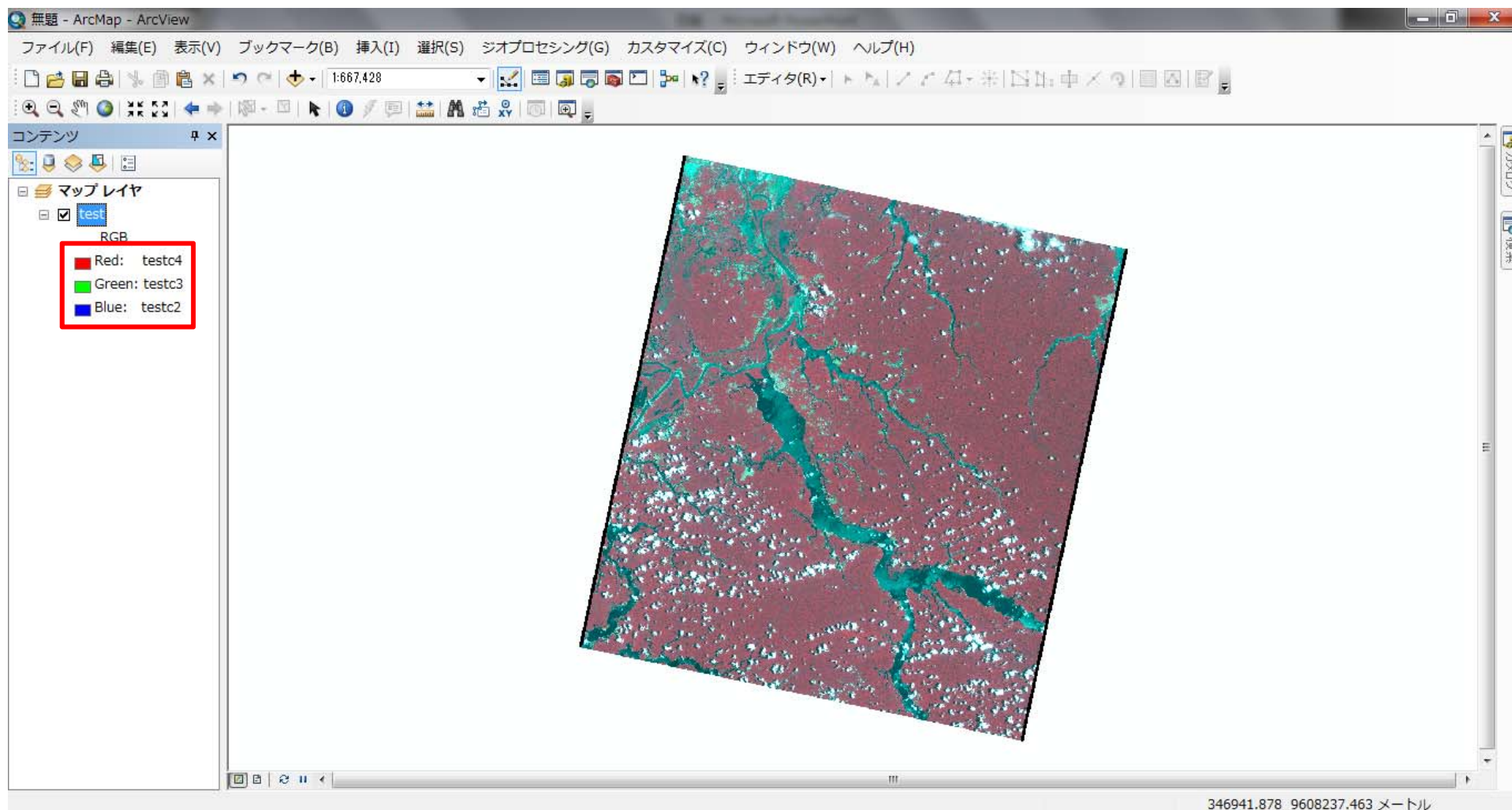
- ArcGIS 10 による合成画像の作成
- ベースマップとしての合成画像の活用
 - 聞き取り調査での活用
 - GPS取得データとの重ね合わせ
- 無償データとソフトによる標高段彩図の作成



コンポジットバンドによって最初に出力された画像

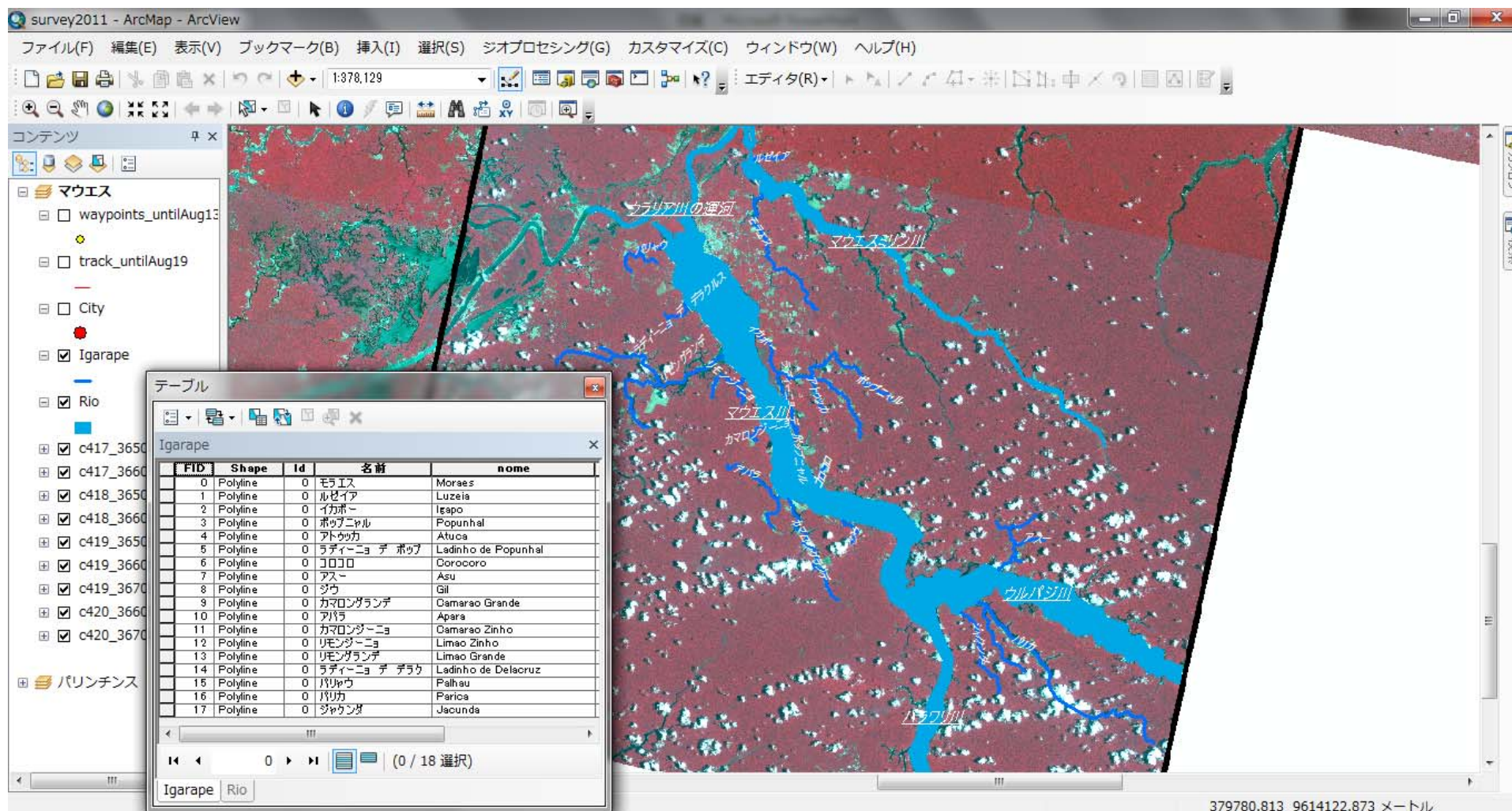


バンドの割り当てを変更して作成したトゥルーカラー画像

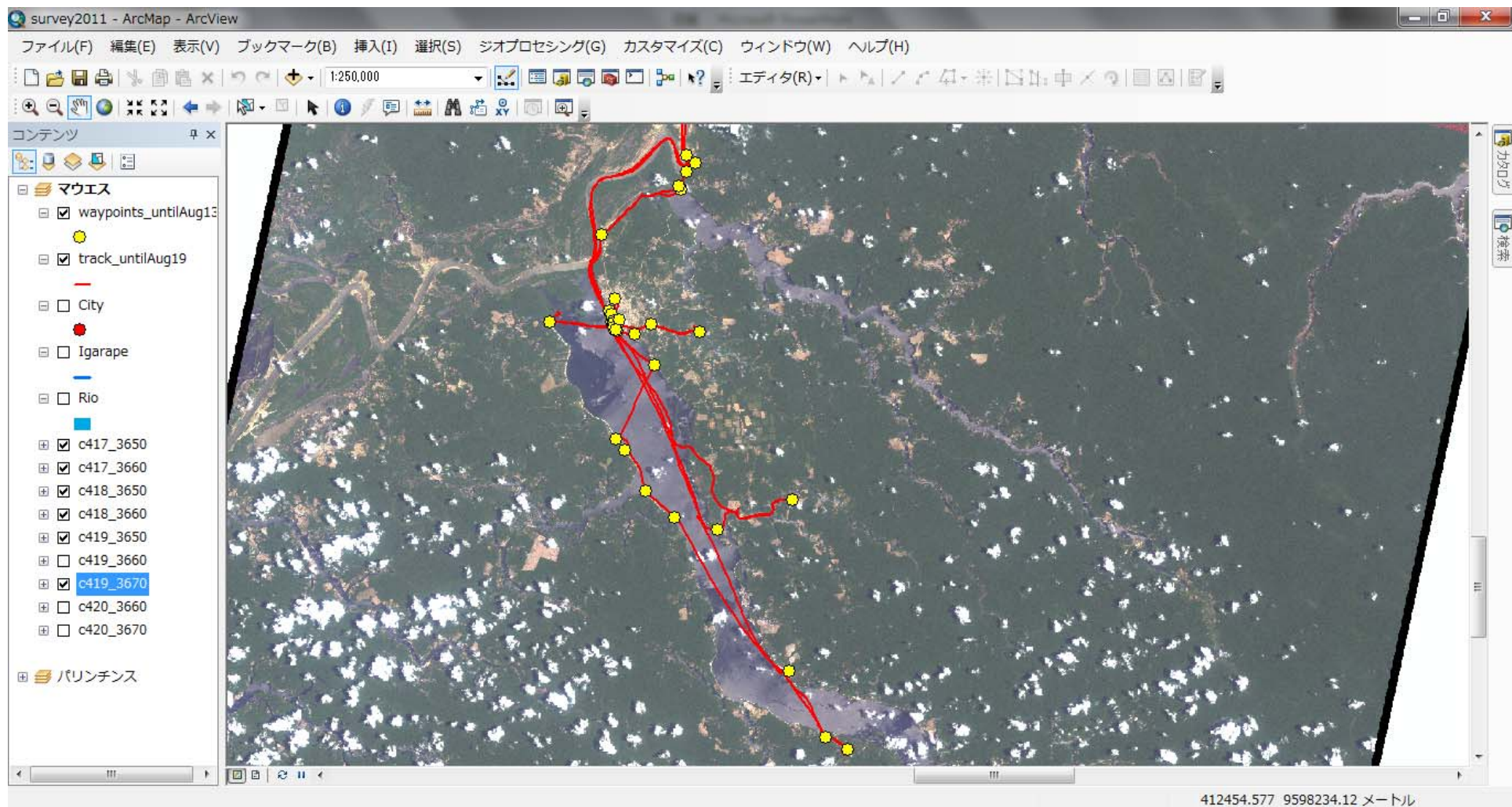


バンドの割り当てを変更して作成したフォールスカラー画像

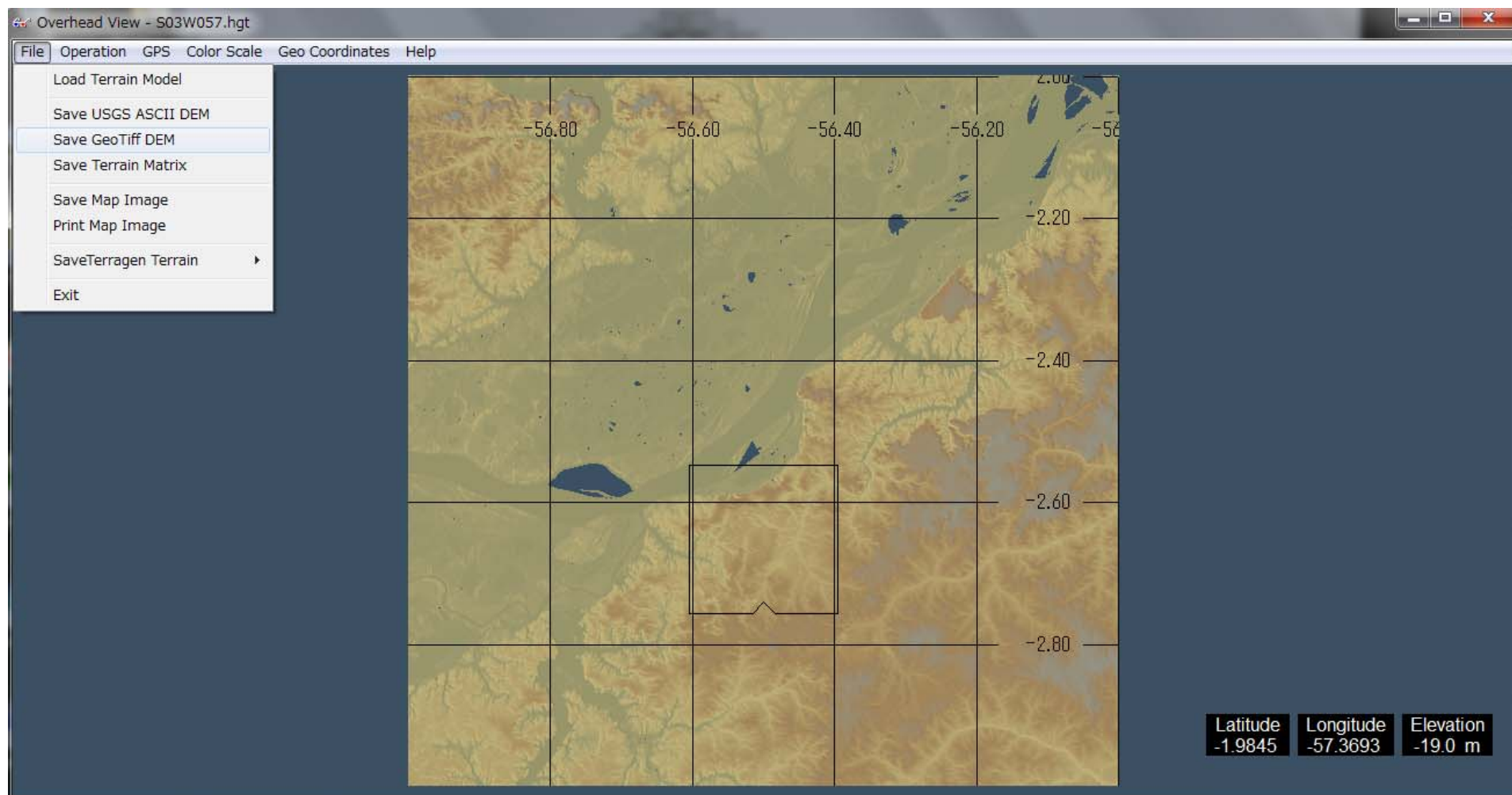




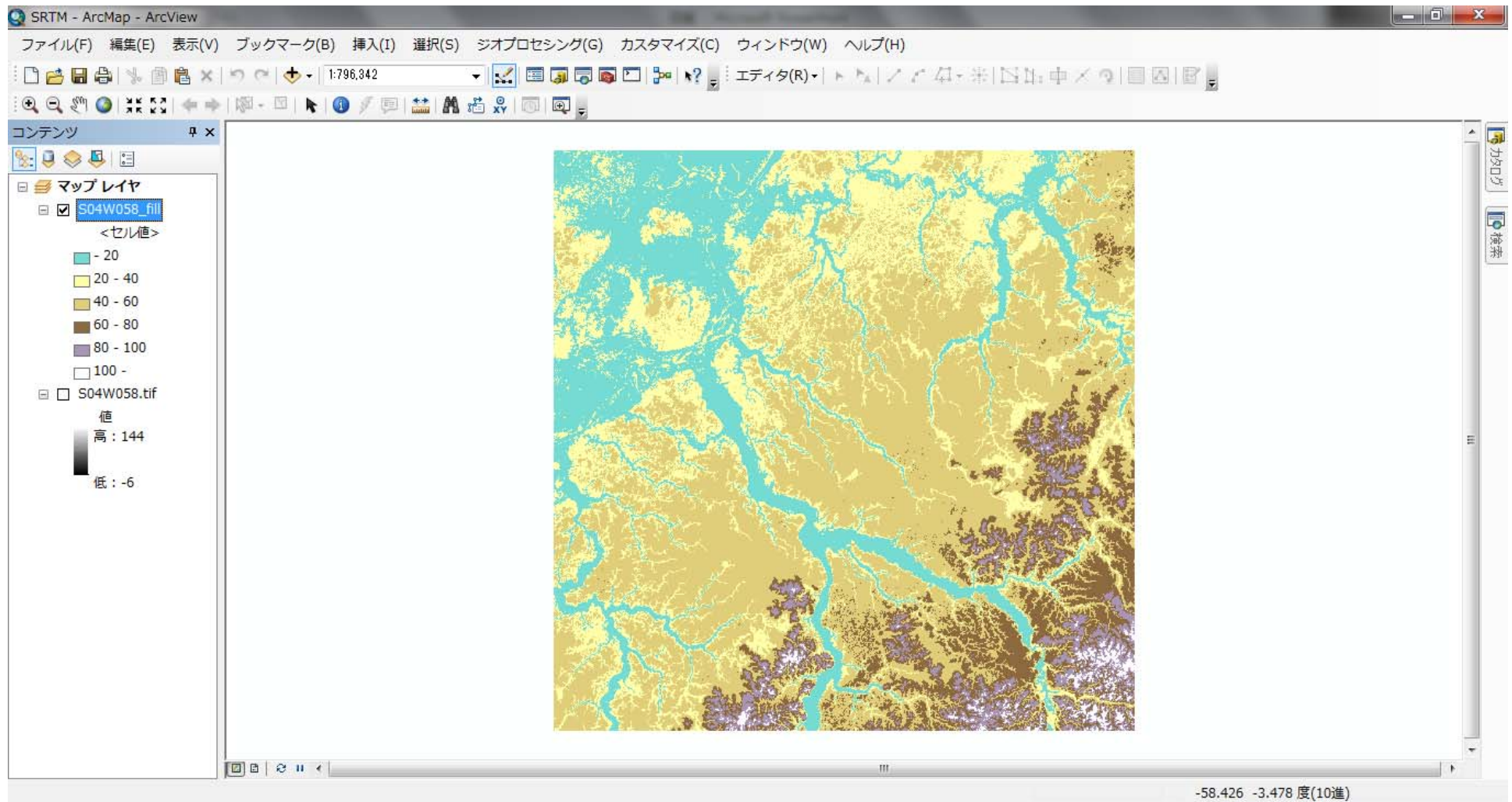
合成画像と聞き取り調査によって作成した水域・水系データの例



GPSの地点データ・軌跡データと合成画像の重ね合わせ表示



3DEMで読み込んだSRTMデータの例



SRTMデータより作成した標高段彩図の例

まとめ

既存地図が入手できずベースマップを自作するというのは多少面倒かもしれないが、別の言い方をすれば、自らの調査対象や調査内容の特性を考慮し、ベースマップとしてどのような項目をどのような形で表現するかを自由にカスタマイズできるということでもある。

GPSによるデータ取得と地図表示は、自らの調査の軌跡や履歴を空間的に記憶しておく備忘録としても大きな意味を持つ。

比較的簡便かつ汎用的な方法で、それぞれの調査の趣旨に即したベースマップを自作するための、ソフトウェアやツール、デジタルデータ類の公開とインターネットを通じた共有化は、今後さらに進展するであろうし、フィールドワークの基礎資料としてそれらを活用することの重要性は、今後さらに増すであろう。